東京慈恵会医科大学 デジタル署名者：東京慈恵会医科大学 日付：2022.12.20 14:54:25 +09'00'

慈恵医大誌 2022；137：87-101.

【資　料】

「慈恵」概念の明確化：Rodgersの進化論的概念分析 －明治期以降の社会福祉研究の文献を手がかりに－

谷　津　裕　子[1]　　児　玉　久仁子[2]　　永　吉　美智枝[2]　　濱　田　真由美[2]
山　下　真裕子[3]　　青　木　紀　子[2]　　北　　素　子[2]

[1] 宮城大学人間・健康学系看護学群
[2] 東京慈恵会医科大学医学部看護学科
[3] 東京都立大学健康福祉学部

（受付　2022 年 6 月 5 日 / 受理　2022 年 8 月 9 日）

CLARIFICATION OF THE CONCEPT OF “JIKEI” WITH RODGERS’ EVOLUTIONARY CONCEPT ANALYSIS: BASED ON SOCIAL WELFARE RESEARCH LITERATURE SINCE THE MEIJI ERA -

Hiroko YATSU[1], Kuniko KODAMA[2], Michie NAGAYOSHI[2], Mayumi HAMADA[2], Mayuko YAMASHITA[3], Noriko AOKI[2], and Motoko KITA[2]

[1]School of Nursing, Miyagi University
[2]The Jikei University School of Nursing
[3]Faculty of Health Sciences, Tokyo Metropolitan University

Aim: To clarify the characteristics of the concept of “*jikei*” in a historical, cultural, and social context.

Method: An evolutionary concept analysis of Rodgers was conducted. The subjects of analysis were 19 Japanese documents published in the fields of social welfare and social security. The data were analyzed according to standard methods of thematic analysis, leading to conceptual attributes, antecedents, consequences, and related concepts.

Results: The attributes of “*jikei*” were composed of “personal connection,” “sympathy/suffering,” “relief,” “giving,” and “spontaneity.” “*Jikei*” was defined as “a voluntary act in which people sympathize and suffer and provide relief and alms on the basis of personal connections.” The antecedents for “*jikei*” consisted of “poverty,” “disaster,” “war,” “policy,” “imperial system,” “gift,” “donation,” and “ethos of the Japanese people.” The consequences of “*jikei*” consisted of “social trust,” “respect,” “attachment to Japan,” “development of social work,” “voluntary obedience,” and “weak public awareness of rights.” As related concepts, “*jinji*” and “*jizen*” were extracted.

Discussion: “*Jikei*” was a concept widely discussed in the peculiar context of the imperial system and national policy from the Meiji era to the early Showa period in Japan. A possible reason why the concept of “*jikei*” was unclear and difficult to obtain a common understanding of was that people’s common understanding of this concept was being lost as time changed. The results suggest that the essential meaning of “*jikei*” should be reconsidered and embodied in modern society.

（Tokyo Jikeikai Medical Journal 2022;137:87-101）

Key words : concept analysis, jikei, meiji era, showa era, social welfare studies

I．緒　　言

2018年度4月，東京慈恵会医科大学（本学）医学部看護学科では，学科長の諮問組織BSC（バランススコアカード）ワーキングが中心となり，同学科の中長期的なビジョンとアクションプランの検討が進められた．その後，BSCワーキングによる情報の整理・分析・提案と，全教員によるディスカッションを積み重ね，2020年1月には最終ビジョン「知の交流の拠点を確立し，人々の健康と生きる力を支える全人的な看護を創造し社会へ発信する」が拡大教授会で承認されるに至った．約2年間にわたる議論のプロセスで特に熱心な意見が交わされたのは，ビジョンに「慈恵らしさ」を連想させる「慈愛」や「人を慈しむ」という文言を含めるべきか否かという点であった．最終的に，「慈恵」も「慈愛」も「慈しみ」も多様な解釈を可能にする曖昧な概念であって，現時点でコンセンサスがないためビジョンには盛り込まないことになったが，ここで行われた熱心な議論により教職員は，「慈恵」概念の奥深さを改めて認識し，「慈恵」とその関連概念の特徴に関するコンセンサスの必要性を実感したと考えられる．

日本語の文献に「慈恵」の語が初めて登場したのは，1370年頃に著された日本の古典文学の1つである軍事物語『太平記』の一節，「我会稽の囲みに遭ひし時己に罰せられるべかりしを，今に命助け置れて天下の敵を待事，偏に君王慈恵（ジケイ）の厚恩也」であるとされている[1]．日本国語大辞典第二版[1]によれば，「慈恵」とは「慈愛の心をもって他に施すこと」であり，「慈愛」とは「親が子に対するような深い愛．また，そういう愛の気持でやさしくいたわること」を意味する．「慈愛」はまた，優しさ，愛情深さ，恵み，大切にする様子など，さまざまな意味を包摂する語であり，かつ「慈愛」には「恩愛」「慈悲」などいくつかの類義語が存在することも指摘されている．

このように，「慈恵」の概念は650年以上も昔から日本に存在し，かつ本学の名称として使われていることが示すように現代にも厳然と生き続けている．しかし，看護学科での2年間にわたる議論に示されるように，「慈恵」の概念が意味するものについて，人々に共通認識が得られているとは言い難い．長い歴史と多義性を有すると考えられるこの概念は，日本社会においてどのように用いられ，現代に引き継がれてきたのか．この問いに導かれ，本研究では「慈恵」の概念の特徴を，歴史的・文化的・社会的な文脈のもとで明らかにすることを目的とする．本研究を通して，「慈恵」の概念に対する理解を深め，「慈恵らしさ」の本質的意味を問うことが可能になると考える．

II．方　　法

1．研究デザイン

Rodgers[2]は，概念は文脈的要因が変化するにつれて時間や状況によって変化するという進化論的な哲学的根拠を有する概念分析法を提唱した．Rodgersは概念の属性を，概念の本質を指し示す普遍的な意味のまとまりではなく，ある時代やある分野で，何らかの理由によって有益で適用可能で効果的な考え方を維持するために，慣例的または意図的な再定義によって時間の経過とともに変化する可能性があるものとして捉える．そのため，この概念分析法では概念の歴史的背景を調べ，帰納的で記述的な調査手法をとりながら，概念をめぐる共通項的な理解を特定して概念の特徴を明らかにする．「慈恵」の概念の特徴を，歴史的・文化的・社会的な文脈のもとで明らかにする本研究の目的を果たすには，こうした進化論的なアプローチの分析が必要であると考えたため，Rodgersの概念分析法に基づき研究を行った．

2．サンプルの選択

サンプルは，看護学，社会福祉，社会保障のそれぞれの研究分野で出版された日本語の文献から選択された．

初めに，看護学の文献を，国内医学論文情報データベース医中誌Webで検索した（検索日2020年7月2日）．キーワード「慈恵」と「看護」をAND検索し，かつ「慈恵」の語が名称に含まれている病院名や診療所名，教育施設名，養成所名をNOT検索したところ，1件の文献が該当した．この1文献の抄録を確認したところ，「慈恵」のシソーラス語である「善行」で抽出されたことが判明した．従って，看護学分野では「慈恵」の概念

分析の対象となる学術論文が存在しないと考えられた．

看護学以外で「慈恵」に関する研究を行っている研究分野を探すため，学術論文検索エンジンGoogle Scholarで「慈恵」をキーワードにして検索した（検索日2020年7月14日）．その結果，「慈恵」を主概念，「社会福祉」を副概念とする論文が3,280件，「慈恵」を主概念，「社会保障」を副概念とする論文が1,310件該当した．このことから，社会福祉と社会保障の研究分野が「慈恵」について集中的に研究を行い，「慈恵」に関連する論文を数多く出版していることが推察された．

そこで，社会福祉と社会保障の研究分野における学術的な文献を入手するため，国立情報学研究所のデータベースCiNiiにキーワード「慈恵」を投入して検索した(検索日2020年10月19日)．「慈恵」と「社会福祉」のAND検索では58文献，「慈恵」と「社会保障」のAND検索では2文献が，それぞれ該当した．次に，それらの文献の抄録を読み，本研究の目的に適した文献か否かを確認したところ，社会福祉の文献では20件が，社会保障の文献では1件が，それぞれ適切であることが判明した．そこで，それらの論文の全文をインターネットや研究者の所属大学の図書館，図書館間相互貸借サービスを通じて入手し読んだところ，社会福祉は18文献が，社会保障は1文献が，本研究の目的と合致した．社会保障の1文献は，社会福祉の18文献中の1文献と同一文献であったため，全体として18文献が分析対象に含まれた．

この他，ハンドサーチでも「慈恵」に関する1つの文献が分析対象に加えられた．このサンプルは，社会福祉と社会保障の研究分野から選択された文献に引用されていたことから我々がその存在を知ることとなり，入手された．

最終的に分析対象となった文献数は，データベース抽出された18文献と，ハンドサーチで抽出された1文献の，合計19文献であった(Table 1)．なお，本研究は「慈恵」概念の歴史的・文化的・社会的文脈の中での意味を明らかにすることを目的とするため，全ての検索過程において我々は文献の発行年や論文種類を限定しなかった．

3．データ収集とデータの整理

サンプルとする文献を入手した後，各研究者は

Table 1．対象文献一覧

文献番号	題名	著者	発行年	雑誌名、巻号、頁数
1	天皇制慈恵主義と私―或る研究会における報告と討論から	遠藤 興一	2020	明治学院大学社会学・社会福祉学研究，155, 79-127
2	戦後日本における医療福祉事業の歴史的変遷からの一考察―国民皆保険体制の下での無料低額診療事業の位置づけをめぐって	杉山 貴士	2015	社会福祉学部論集(佛教大学社会福祉学部)，11, 47-60
3	「慈善事業」概念に関する考察	石井 洗二	2014	社会福祉学(一般社団法人 日本社会福祉学会)，55(3), 1-11
4	象徴天皇制とその慈恵的性格について（遠藤興一教授退任記念論文集）	遠藤 興一	2013	明治学院大学社会学・社会福祉学研究，140, 59-119
5	「子ども家庭福祉」概念の検討	中村 強士	2009	佛教大学大学院紀要 社会福祉学研究科篇，37, 71-88
6	福祉と神学・宣教学との接点―キリスト教公共福祉学(1)	稲垣 久和	2009	キリストと世界(東京基督教大学紀要)，19, 15-57
7	慈恵救済資金と慈善事業施設経営	宇都 榮子	2000	社会福祉(日本女子大学社会福祉学科)，41, 69-90
8	慈恵的救療と民衆―成立期済生会事業の特質について	中西 よしお	1993	社会福祉学(一般社団法人 日本社会福祉学会)，34(2), 1-20
9	慈恵救療政策の実態に関する一考察	田沢 あけみ	1982	社会福祉(日本女子大学社会福祉学科)，23, 73-83
10	天皇制慈恵主義の史的構造について	遠藤 興一	2005	明治学院大学社会学・社会福祉学研究，121, 1-82
11	戦後天皇制と社会福祉（上）天皇制慈恵主義の継承をめぐって	遠藤 興一	2008	明治学院大学社会学・社会福祉学研究，129, 249-304
12	戦後天皇制と社会福祉（下）天皇制慈恵主義の継承をめぐって	遠藤 興一	2009	明治学院大学社会学・社会福祉学研究，130, 237-287
13	高松凌雲と同愛社の事業―同愛社設立初期の背景とその活動・運用を中心に	山田 みどり	2015	社会福祉学(一般社団法人 日本社会福祉学会)，56, (1), 12-24
14	人体実験論（1）近代医学と人体実験の役割	村岡 潔	2007	社会福祉学部論集(佛教大学社会福祉学部)，3, 89-104
15	『月刊福祉』のはじまり「慈善」を読み解く（第19回）生江孝之「欧米に於ける慈恵救済事業の趨(すう)勢」	蜂谷 俊隆	2019	月刊福祉，102(11), 58-61
16	天皇制慈恵主義とはなにか―その成立過程と実施内容について	遠藤 興一	2007	明治学院大学社会学・社会福祉学研究，124, 1-82
17	帝国日本統治下の「台湾慈恵院」および「台北仁済院」の歴史的研究（特集 近代東アジアにおける社会福祉実践の展開とその特質）	大友 昌子	2018	社会事業史研究(社会事業史研究会)，54, 47-58
18	恩賜・下賜金の支出状況からみた天皇制慈恵主義（上）	遠藤 興一	2007	明治学院大学社会学・社会福祉学研究，122, 1-145
19	論考①昭憲皇太后と東京慈恵医院	辻岡 健志	2020	港区立郷土歴史館(編)，港区と皇室の近代 特別展関連プログラム講座資料(pp. 96-101)．港区立郷土歴史館．

2～3つの文献を担当し，精読した．その後，データを整理するために我々が開発したコーディングシートに，各文献のタイトル，著者名，雑誌名，研究目的，興味深い文章の抜粋，コードを記録した．興味深い文章の抜粋の欄には，本研究の目的に関連する部分を切片化した文章が記された．データの元の情報に戻ることができるように，各々の切片化された文章にはページ番号も記された．コードの欄には，切片化した文章のポイントを明確化した説明的･要約的なコードが記された．全てのデータが適切に記録されていることを相互に確かめるために，記録されたコーディングシートはクラウドストレージサービスDropboxに保存され，月１回の研究者会議で担当者から報告され，研究者チームで情報を共有した．こうした確認と共有は，研究者が全てのデータに親しみ，「慈恵」の概念の特徴についてイメージするのを助けた．

４．データ分析

データ分析は，Rodgers[2]が推奨する方法に則り，コード，サブカテゴリー，カテゴリーと帰納的に抽象化される主題分析（thematic analysis）の標準的な手法に従って行われた．最終的には，概念の属性，その文脈的特徴（先行要件，帰結），および関連概念を説明する一覧表にまとめられた．

概念分析の主要な成果は，概念の属性を見出すことである[2]．概念の属性は，ある同義の表現を別の表現に置き換えるだけの名目上の定義または辞書的定義とは対照的に，実際に使われている定義を構成する[3]．「慈恵」の概念的定義を可能にするのは，この属性のクラスターである．概念の属性に関連するデータを分析する際，研究者が検討すべき質問は「その概念の特徴は何か？」「著者はその概念について何を語っているか？」というものである[2]．我々はこれらの問いを念頭に置いて概念の属性を分析した．

文脈的特徴を特定する先行要件と帰結は，概念の起源，発展および機能の理解に貢献する[2]．概念の文脈的基盤を特定することは，概念の適用のための状況的，時間的，社会文化的および学問的文脈を表すことである．概念のこれらの側面を明らかにするために，我々は，Rodgersが提唱する質問群，すなわち「その概念が指し示す現象が起きる前に何が起こるか？」「その概念が意味する出来事が生じた後に何が起こるか？」「その概念は様々な人や状況で異なって使用されるか？」について検討した．

関連概念の特定は，概念の全体的な理解に重要な貢献をする．関連する概念を挙げ，それらの特徴を明らかにすることにより，より広い知識基盤のもとに概念を位置付けることができ，関心のある概念の文脈的基盤が追加される[2]．

本研究では，Rodgersの進化論的概念分析法の特徴である帰納的で発見的なアプローチを推し進めるため，データ分析過程で“マインドマップ”の手法を独自に採用した．マインドマップとは，英国人作家Buzan T[4]が提唱した思考技術で，用紙の中央に議題となるメインテーマを配置し，テーマから連想されるアイデアや情報を線で繋げながら，分岐させるように放射線状に展開していくメモ取りシステムである．この思考技術は，テーマに関連するキーワードを理解・想像・連想しながら整理する力を養うため，教育やビジネスの分野で活用されることが多い．本研究ではマインドマップを，コード化を終えた段階で取り入れた．我々は，各自が担当した文献のコードを用いてマインドマップを描き，コードが意味する内容の要点を浮かび上がらせ，その要点を他のコードと関連づけた．この作業は，「慈恵」の概念に関連する時代，政治，政策，経済，社会情勢，生活，価値観等，複雑で多様な情報に圧倒され，混乱していた我々の思考を，「慈恵の概念の特徴は何か？」という研究疑問のもとに統合し，概念の広がりとつながりを発見させるのに役立った．

マインドマップを描いた後，我々は「慈恵」概念の主要な側面を説明する一覧表を作成した．マインドマップの効果により，「慈恵」の概念の全体像が見え始めていた我々にとって，何が「慈恵」の属性か，先行要件か，帰結か，関連概念かを見極めるのは難しいことではなかった．我々は，各項目にふさわしい単語や語句をマインドマップから抽出し，それらをカテゴリーと名付けた．次いで，そのカテゴリーの根拠となるコードを挙げ，それらの共通性と差異性に着目し分類して命名し，それらをサブカテゴリーとして位置付けた．

5．倫理的配慮

本研究は人や動物を対象とする研究ではないため，本学の倫理委員会の受審対象外であった．しかし，我々は本研究の分析対象となる著作物を保護するため，自主的な行動規範を計画書に明示し，それを遵守した．すなわち，本研究で使用する文献を図書館で複写する場合は著作権法第31条，図書館外で私的使用として複写する場合は第30条に則り適正に実施した．また，引用は第32条の要件に則り適正に実施した．

Ⅲ．結　　　果

「慈恵」の実際の定義を提示した著者は存在しなかったが，「慈恵」は，立憲君主制の定着化を目指した明治期から昭和初期における天皇制と国家政策をめぐって広く議論されていた．文献の中で「慈恵」は，貧困や罹災により苦しむ人々に対して医療や福祉をもって救済する思想的立場や政策を意味し，実社会に社会事業の発展をもたらすとともに，人々に社会的信頼や敬愛の念，自発的服従等をもたらすものとして使用されていた．

1．「慈恵」の属性（Table 2）

「慈恵」の概念の性質について幾つかの共通理解が見出された．それらの共通項は，「慈恵」の概念を，*“人格的つながりに基づき人々が共感・共苦し，救済や施しをする自発的行為”*として定義する結果をもたらした．以下に，この定義を構成する属性のカテゴリーを説明する．

Table 2.「慈恵」の属性

カテゴリ	サブカテゴリー	コード	文献No.
人格的つながり	国民との間に成り立つ強い精神的きずな	・民生委員と天皇は「仁慈」を介在させた精神的紐帯によって成り立つ関係にあるという受け止め方が広がった．（昭和22年）	12
		・戦後まもなくの巡幸において被災者，遺族に示した「慰め」，「励まし」，「思いやり」の態度や言葉使い，そこに反応する人びとの応答，姿勢．天皇と国民との間で新たな新たな紐帯が確立した．	4
	人格的価値を伴う福祉的活動	・戦前は福祉に天皇の存在があり人格的価値があったが，戦後は金銭問題だけになった．福祉を慈恵として捉える視点が欠落している．	1
		・天皇制慈恵主義は過去の問題ではなく現在と将来を考えるための重要なテーマ．	1
共感・共苦	国民の苦しみに共苦する態度	・昭和天皇・皇后：飢えと敗戦に苦しむ国民とともに共苦・共感の世界を歩む姿として天皇の慈恵的態度が示された．	4
	人々の共感となって拡がる体験	・個人において，あるいは集団において時間，空間を共有する人びとによって共振，共感の体験となって拡がる．	4
		・対象が拡がると同時に，従来の「感涙」に咽ぶ場面が相対的に少なくなり，どちらかといえば心情的に軽いものに変わった．	12
		・戦前の場合は，罹災救恤について廻る貸金の授与が要であったが，戦後は激励，慰労が中心となったが戦前との間に「断絶」的性格を強調するまでに至らなかった．	11
救済	貧困者に寄り添う社会福祉的な視点	・明治政府が貧困者に対する救済事業に国費を割くことに消極的ななかで，貧困者に寄り添う〈皇后の病院〉として東京慈恵医院の役割が模索された．「慈恵」という語には，社会福祉への眼差しがよく表れている．	19
		・皇族と社会福祉との関わりを示すケースとして慈恵救済基金がある．	12
		・明治末期，財界，政界，医学会，社会事業が一体となり，細民を対象とし，天皇「慈悲」により救貧行政を代替補完するものに恩賜財団済生会があった．	9
		・日本の救済事業は，恤救規則を改正し，慈恵病院を設置し，貧民や犯罪を防止し，貧民の状況を精知し，真の救済が必要があった．★	15
	救済事業の代名詞としての慈恵	・日本の統治下，台湾慈恵院制度は1899年から1922年の間に台湾の7か所に救済事業施設を設置した．［院内・院外窮民救助，嬰児・棄児保護，水難救護，軍事救護，地域隣保，動物愛護等］	17
施し	権威者が国民へ施す医療福祉	・日本の天皇制慈恵主義は，権威（恩情）の契機が表面に出る基本的性格があった．	16
		・戦争によって困窮する国民への医療福祉を，天皇の下賜金をもとに基金をつくり，慈恵医療を施す．★	2
		・「仁政」が慈恵的側面において具体化されると，やがてそれは制度となり，施与，恵与のシステムとして動きはじめる．	4
	社会的信用を伴う慈善事業	・「仁政」は「施与」と「撫育」を合わせ持ちながら，統治形態を形づくった．	4
		・慈恵救済金が使われた孤児院のような慈善事業は当時「乞食の親分」くらいにしか人々に認識されていなかったが，慈恵救済金を受けたことにより，現在の認可施設に通じる社会的な信用を得ることになった．	
	「良民」形成のための救済事業	・救済制度全体を視野に入れた制度化は，律令制国家における「賑給」の明治版であった．	16
		・慈恵救済金の基本的性格は，国家にとって必要不可欠な「良民」を形成するための感化救済政策であった．	16
		・日本の救済事業は，恤救規則を改正し，慈恵病院を設置し，貧民や犯罪を防止し，貧民の状況を精知し，真の救済が必要があった．★	15
自発性	自発性に基づく行為	・「慈恵」は一種の道徳的行為であり，強制されない自発性に基づいた行為である．	10
	私人としての意思	・天皇制慈恵主義は皇室による私的な救済であった点が賑給と異なる．	1
		・天皇，皇后の「思召」（戦前），「お気持」（戦後）という事柄の中には公共性，公益性を建前としつつ，実際には私意，私益が介在する構造が見られる．	10
		・慈恵的慈善事業が，私人としての意思によって行われた．	3

★印は，2つ以上のサブカテゴリーに使用されたコードであることを示す．

1）人格的つながり

「慈恵」の概念の特徴を表す性質として，複数の文献にこの概念が提示されていた．「慈恵」は，国民と天皇との間に存在する強い精神的きずなを表す，人格的価値を伴う福祉的な活動として言及されていた．但し，こうした人格的つながりに基づく福祉は第二次世界大戦前に見受けられたものであること，大戦後に福祉は専ら金銭問題として議論されるようになり，福祉を慈恵として捉える視点が欠落していることも指摘されていた．

2）共感・共苦

共感・共苦の概念は，人格的つながりと密接に関連している．「慈恵」を示す態度は，天皇・皇后が飢えと敗戦に苦しむ国民とともに共苦・共感の世界を歩む姿として示されていた．また，そうした慈悲にあふれた態度は天皇・皇后と時間・空間を共有する人々に共振して拡散する性質があることが指摘されていた．但し，戦後は天皇・皇后による巡幸・表敬訪問の対象が拡がるにつれ，国民が感涙に咽ぶような場面は相対的に少なくなり，どちらかといえば共感は心情的に軽いものに変わったことが指摘されていた．

3）救済

多くの著者が，「慈恵」における救済の概念の重要性を指摘した．ここで言う救済とは，貧困や災害，戦争，その他の不幸で苦しむ人を救い助けようとする行為や姿勢であり，特に「慈恵」においては貧困者に寄り添う社会福祉的な眼差しが特徴的であることが述べられていた．

4）施し

「慈恵」とは何かを志したり思慮したりすることだけではなく，実際に恵み与える施しの行為を伴う概念であると考えられていた．具体的には，天皇や政府という権威者が国民へ施す医療福祉や慈善事業を指し，それらは経済的な裏付けと社会的信用を伴った一定期間継続する行為であるという特徴が見られた．その1つである明治期に始まった慈恵救済金は，貧民や犯罪を防止し，国家にとって必要不可欠な「良民」を形成するための感化救済政策であった．つまり，大戦前に慈恵政策のもとで行われた日本の救済事業は，「良民」形成のための救済という基本的性格を有していたことが指摘されていた．

5）自発性

「慈恵」は一種の道徳的行為であり，強制されない自発性に基づいた行為であることが語られていた．実際，天皇・皇后による「思召」（大戦前）や「お気持」（大戦後）には，公共性と公益性を建前としつつ私意や私益が介在する構造が見られており，こうした私人としての意思は「慈恵」の概念の重要な特徴とされていた．

2．先行要件（Table 3）

調査された多くの文献が，「慈恵」の概念に先行して〈貧困〉〈災害〉〈戦争〉という人々に災いをもたらす状況があることを示していた．最も頻繁に言及されたのは〈貧困〉であり，明治期の貧富の格差と防貧思想，関東大震災後の貧富の格差，そして第二次世界大戦後の貧富の差の拡大によって人々に医療を施す「慈恵医療」と呼ばれる仕組みが生まれ，定着したことが述べられていた．しかし，実際に「慈恵政策」の中で最も支出が多かったのは〈災害〉支援，すなわち罹災救助であり，政府が救済行政の集中的一元化を図り，救済制度全体を視野に入れて慈恵政策を制度化したのも，関東大震災がきっかけだったとされる．さらに，〈戦争〉が慈恵医療と慈恵政策に与えた影響も大きい．日清・日露戦争後，天皇制国家体制を強化するために国民を統合し，かつ戦争によって困窮する国民へ医療福祉を提供することを目的に，「天皇制慈恵主義」が再編されたことが指摘されていた．

「慈恵政策」とは，明治政府が立憲君主制の確立を目指す過程で皇室の下賜金を主要な財政基盤として押し進めた慈善事業，特に医療・社会福祉政策である．皇室もまた，こうした慈善事業を通して天皇の権威を「知らしむ」努力を重ねたことから「天皇制慈恵主義」と呼ばれることもある．天皇制慈恵主義は古代の律礼体制に始まり，明治維新によって復活し，以後は天皇制国家体制にとってなくてはならない存在となった[5)]．

こうした歴史的・政治的背景のもと，「慈恵」の概念に先行するものとして，戦前の〈政策〉，特に明治期と大正期の政策のありようが数多く述べられていた．多額の皇室財産は政治的に大きな役割を担い，政府は，慈恵医療によって貧しい人々

Table 3. 「慈恵」の先行要件

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	文献No.
貧困	明治期の貧富の格差と防貧思想	・明治初期，旧士族は幕藩体制の崩壊により生活基盤を失い生活に困窮をきたした．農民も農政改革により小作化が進み，不況の影響を受けて農家・農民は没落し，多くの窮民が都市に流動し停滞してスラムを形成した．	13
		・政府は，慈恵医療によって貧しい人々への医療を施す仕組みを定着させた．★	2
		・明治政府が貧困者に対する救済事業に国費を割くことに消極的ななかで，貧困者に寄り添う〈皇后の病院〉として東京慈恵医院の役割が模索された．「慈恵」という語には，社会福祉への眼差しがよく表れている．★	19
		・各皇后は，東京慈恵会医院の開設等，貧困者，傷病者に特別な関心を示した．★	10
		・社会的に新たな防貧思想の目芽える前段階として済生会は位置づけられる．	9
		・英国のエリザベス救済法が世界で最も早い救済法であるが，防貧性がないことや組織化ができておらず，失敗している．	15
		・ドイツのエバーフェルト制度やデンマークの改正救貧法は，防貧を基礎としているので，負担額も少ない．	15
	関東大震災後の貧富の格差	・関東大震災後の貧富の懸隔が著しい世相と階級間の隔差があった．	16
	大戦後の貧富の格差	・香淳皇后は戦後まもなくから救貧層に下賜の衣料頒与を行なっている．	4
災害	大戦前の罹災救助	・慈恵政策の中で最も支出が多いのは罹災救助だった．	1
	西南戦争とコレラの蔓延	・1877年明治10年の西南戦争後，コレラの蔓延と貧困者の増大する社会背景があった．	13
	関東大震災後の救援政策	・後藤は社会事業行政を発足し，救済行政の集中的一元化を図り，救済制度全体を視野に入れて慈恵策を制度化した．★	16
		・関東大震災後，後藤は救援政策の必要を強く訴え，省内に救護課を新設して社会事業行政を発足した．	16
戦争	日清・日露戦争後の国民統合と医療福祉	・日露戦争後，天皇制国家への国民統合のための「人心掌握」の方法と，財政的重圧の解決のための勤労として天皇制慈恵主義が再編された．	16
		・戦争によって困窮する国民への医療福祉を，天皇の下賜金をもとに基金をつくり，慈恵医療を施す．（属性「施し」にもあり）★	2
	戦時下の政策としての慈恵策	・慈恵策は大戦前の社会政策の根本特徴の１つであり，資本蓄積の反面としての近代的労働大衆は政策の対象物という考えが戦時下まで引き継がれた．	16
政策	近代日本の立憲君主制の定着化	・天皇制慈恵は，近代日本における立憲君主制の定着を背景に生まれてきた下賜金を財源とする政策・制度であった．★	10
		・天皇は立憲政治を側面から支える政治的統合，民衆教化のシンボル的役割を果たした．★	10
	明治・大正期の政治的均衡の必要性	・天皇制慈恵主義は，戦前，君主制に基づく人格支配と道徳的な国家論で，政治的均衡を可能にした．	10
		・戦前における天皇制慈恵は内務・厚生行政の施策的不充全さを補充し，かつ代替する役割をもって行なわれた．	4
	明治・大正期の財源としての皇室財産	・天皇制慈恵主義は多額の皇室資金のもと政治的に重要な役割を担った．★	1
		・慈恵的で道徳的な経論を目指す施政方針の元，皇室が中心となり，政府は協力・仲介する役割を担い，皇室からの下賜金をベースに政府支出の官金をして側面から加わらしめる制度を確立した．★	16
		・皇室財本が国家予算の約５分の１を占めた状況から，皇室独自の財産運用による慈恵策を「基金」として制度化した．	16
		・原が首相となって注目したのは，皇室財産が膨大な額を所有しており，その運用にあたり国民生活との接点をほとんど持たないことであった．	10
		・原がとった政策は，皇室経費の増額要請を拒否し，かつ皇室所有の株券その他の効率的資産運用，公共事業，社会事業に対する皇室財産の支出拡大であった．皇室は質素，倹約の点において国民に範を垂れることと併せ，天皇制慈恵主義の強化，拡大を図った．	10
		・「仁慈」に肯定的であった原敬は皇室財産の増高を画策し，皇室が下賜金を付与する天皇制慈恵を慈恵政策とした．	16
		・原敬は社会主義勢力に対抗し，救援政策の必要性を強く訴え，慈恵救済振興を掲げた．	16
	明治・大正期の医療・社会福祉政策	・政府は，慈恵医療によって貧しい人々への医療を施す仕組みを定着させた．★	2
		・済生会の事業は行政に組み込まれ，天皇の救療事業が推進された．	2
		・明治政府が貧困者に対する救済事業に国費を割くことに消極的ななかで，貧困者に寄り添う〈皇后の病院〉として東京慈恵医院の役割が模索された．★	19
		・相互扶助による救済が前提であるが，それができない場合に天皇を直接民衆に結び付ける方策として慈恵的な福祉が存在していた．	6
		・天皇制慈恵主義は，国家制度の政策実施の外に向かう国民救済策として位置づける場合と，内に向かい広く天皇制国家体制の維持存続を目指したとみなす場合がある．★	10
	政府による公的責任の回避	・杉本は，「国家が救済に関与して国民の教化を図りつつも，自らが責任を持って救済にあたることはせず，天皇制慈恵主義を前面に出して公的救済からは免れていた」と，公的責任を回避することが慈恵主義を全面に立てた最大の理由であったとし，この政策を遂行するために活用されたのが，いわゆる中間団体であると指摘する．	10
		・天皇と皇室の事業は天皇制イデオロギー浸透政策の徹底化に伴い，最大限に利用されるべくして成立・機能したものである．その結果，救済は国家責任の原理の下においてではなく，天皇，皇室の恩恵，慈恵という原理の下において取り組まれる評価を結果した．	10
	関東大震災後の救援政策の財源	・後藤は社会事業行政を発足し，救済行政の集中的一元化を図り，救済制度全体を視野に入れて慈恵策を制度化した．★	16
天皇制	明治期の皇室の権威象徴化としての福祉と慈善事業	・社会事業は皇室の慈恵対象であり，皇室は権威の象徴として福祉を取り込んでいる．	1
		・天皇が担うという形式が慈恵医療の基本形となった．	2
		・伊藤博文は明治31（1899）年2月9日，明治天皇に意見書を奉呈，皇族は積極的に慈善事業に関わるべきだとする献言に言及．	11
		・明治期は，儒教的徳治主義として，お上による福祉的なお恵みがなされることで天皇制を維持していた．	6
		・日本の社会福祉は特殊天皇制的な慈恵を背景とした重い歴史的課題を背負っている．	1
		・天皇制慈恵主義は，国家制度の政策実施の外に向かう国民救済策として位置づける場合と，内に向かい広く天皇制国家体制の維持存続を目指したとみなす場合がある．★	10
		・独立講和を挟む足かけ九年の巡幸は，福祉に熱心な天皇というイメージ，すなわち天皇制慈恵主義を成立させるための有効な手段として福祉機能に注目した．	12
		・天皇中心から，天皇・皇后中心の慈恵主義が生まれる素地が形成された．★	4

天皇制	明治期の行政機構の介在	・天皇による個人的な慈恵運動や人格的な発意に彩られた善事は限られた場合に過ぎず，大半は「言上」から「裁可」に至るプロセスを経て処理された．ここには厳然とした官僚を中心とする行政機構が介在する．	10
		・皇室の「仁慈」は宮内省と内務省を中心とする政治の世界から生じた．個人的な発意にもとづく場合でも，その実施に当たっては政治情勢との関係が深く影を落としている．	10
	天皇制慈恵主義のルーツとしての古代律令制と欽定憲法	・天皇制慈恵主義は明治の欽定憲法下で制度化した．	1
		・天皇制慈恵主義の始まりは明治維新ではなく奈良時代の古代律令制の賑給制度である．	1
	政治利用された天皇制	・清水幾太郎は，「精一杯，天皇制を民衆の間へ持ち込むこと」を意図した政治性について，慈恵を大いに利用したという．	10
		・戦後天皇制は「政治的に確立したものを，今後は社会的に確立することが必要になる」段階で，具体的な方策を講じる必要性に迫られていた．	12
	戦前・戦後につながる精神的支柱	・天皇制慈恵主義は今日も国民の精神的な拠り所として形を変えて機能している．	1
		・敗戦を境にして戦後も天皇制慈恵は何ら変更が加えられることはなかった．	10
		・慈恵に関する社会福祉の実態は戦前と戦後でつながっており，今は行事のシステム化が進んでいる．	1
		・戦後は慈恵の具体的な方策が戦前以上にシステム化された．★	4
	戦前の社会事業の母体	・戦前の私設社会事業の実態はボランタリーではなく天皇制（お上）であった．	1
		・明治に財団が整備され，恩賜財団慶福会が成立し，省庁，分野を超えて教育，司法，運輸，拓務といった領域で社会事業と関係する事業を行った．★	16
		・恩賜財団慶福会による経済界の不況で苦慮する施設，団体への支援は，社会事業施設の縮小や廃止を阻止する狙いがあった．★	16
	慈恵の担い手としての皇后と皇室	・皇室は慈善活動に思想的，現実的基盤を与え，国民に天皇の存在を「知らしむ」努力を重ねた．	10
		・皇后が慈恵の担い手となり，内治の象徴となった．	1
		・各皇后は，東京慈恵会医院の開設等，貧困者，傷病者に特別な関心を示した．★	10
		・昭和天皇の良子皇后は，慈恵には熱心であり，明治，大正とは異なる時代相を背景に天皇制慈恵主義を体現した．	10
		・天皇制慈恵主義は，国家制度の政策実施の外に向かう国民救済策として位置づける場合と，内に向かい広く天皇制国家体制の維持存続を目指したとみなす場合がある．★	10
		・天皇制慈恵主義はその実施場面において，皇后を頂点とする人事によって行われた．しかし，昭和期に入ると男性皇族の参画も見られるようになった．	10
		・東京慈恵医院は皇室と縁深い病院である．皇室との関係は，明治14（1881）年，成医会講習所開設時に下賜された「思召」を起点に始まった．	19
		・明治17（1884）年，有志共立東京病院が開院．病院総長は有栖川宮威仁親王が担った．	19
		・明治20（1887）年，婦人慈善会と井上馨（外務大臣）が昭憲皇太后に対して有志共立東京病院の名称・組織・維持方法等の改正について説明した結果，有栖川宮熾仁親王妃董子が幹事長に，高木兼寛が院長に任命された．病院名も「東京慈恵医院」に改称された．	19
		・東京慈恵医院の開設後，皇室との関係は，①御料地への設立，②賜金等による援助，③女性皇族の幹部就任，の3つの特徴をもってより密接となっていく．★	19
		・皇后が下賜の担い手であったが，天皇，皇后どちらが主役か判断できない．★	16
		・行幸の視察先は，学校，県庁，裁判所，軍事施設，産業施設等に続いて医療，社会福祉施設が主な対象となった．	12
		・戦後は慈恵の具体的な方策が戦前以上にシステム化された．★	4
		・天皇中心から，天皇・皇后中心の慈恵主義が生まれる素地が形成された．★	4
下賜金	慈恵主義と慈恵政策の実現を支えるもの	・天皇制慈恵主義は多額の皇室資金のもと政治的に重要な役割を担った．★	1
		・戦前，社会福祉に下りる金銭のルートには①下賜金（宮内省）②助成金・補助金（内務省）③恩恵財団慶福会の3つがあった．天皇制慈恵の財源は①③．	1
		・天皇制慈恵は，近代日本における立憲君主制の定着を背景に生まれてきた下賜金を財源とする政策・制度であった．★	10
		・太平洋戦争が始まると皇室による下賜金品の授与は減少したが，天皇制慈恵主義はその対応姿勢と看板を降ろすことはなかった．	10
		・慈恵的で道徳的な経論を目指す施政方針の元，皇室が中心となり，政府は協力・仲介する役割を担い，皇室からの下賜金をベースに政府支出の官金をして側面から加わらしめる制度を確立した．★	16
		・慈恵を特徴づけるものは金銭とエートス．地域社会に下賜金を下ろすことで底辺庶民による皇室賛美と皇室制度を底支えする働きを高めた．★	1
		・形式的な助成費目は消えても，下賜を通じて政治的，社会的な権威の承認行動は戦後も引き継がれ，「象徴」天皇制のもとに天皇，皇族のもつ慈恵的属性も維持，存続した．★	11
		・明治16（1883）年，高木兼寛・戸塚文海は「有志共立東京病院」の開設にあたり皇室より金6000円を下賜された．	19
		・明治19（1886）年，昭憲皇太后の「思召」により婦人慈善会の構想は実現し，有志共立東京病院は再出発した．	19
		・①御料地への設立：宮内省が内務省所有の地を御料地に編入し，東京慈恵医院に無償貸与したことで，同院は皇室の所有する御料地に建つことになり，皇室の病院であることを印象付けた．	19
		・②賜金等による援助：昭憲皇太后の下賜金は東京慈恵医院の運営資金や施薬料に充てられた．土地・建物の下賜も行われた．	19
		・明治38（1905）年，昭憲皇太后が東京慈恵医院の事業拡張のために「患者費」を下賜し，社団法人化を側面から後押しした．	
		・戦前の天皇制下に展開された各種慈恵救済下賜金は，戦後においても対象や金額に変化を見せながら基本的な枠組みを変えることなく継続された．	12
		・GHQは天皇制慈恵主義と支える思想原則を否定していたが，下賜を認めた．	12
		・下賜金は，戦前は慈恵救済基金に組み入れ，戦後は共同基金に対して行われた．★	12
		・慈恵救済資金は，明治に天皇や皇后の葬儀に際して慈恵救済の資金を補う目的で下賜された．	7
		・慈恵救済金の対象は，慈恵病院孤児院や感化院のような，慈恵救済の趣旨に合ったものが選ばれた．	7
		・皇室財産は社会福祉に関する財政的な影響や，政治的，思想的意義の社会的な広がりがある．	18

下賜金	慈恵主義と慈恵政策の実現を支えるもの	・皇室会計は施式な予算も作らず，決算も公式な報告はなく，社会福祉に対する下賜金は私費で扱われ，私費に不足が生じた場合には皇室財産から補い，余剰が発生した場合には私有財産に戻していた．	18
		・国家財政と皇室財政は別の制度として組み立てられた．政府が行う救済とは別に，皇室財産を基礎にして慈恵救済や賑恤政策を実施した．	18
	基金制度	・天皇制慈恵主義は「基金」として整備され，内務省から道府県，市町村へ下降する助成ルートと連結した．	16
		・天皇制慈恵の中に，道府県の行政財産と結びついた基金制度がつくられ運用された．	1
		・下賜金は，戦前は慈恵救済基金に組み入れ，戦後は共同基金に対して行われた．★	12
	立憲君主制を支えるもの	・皇室財政は明治43年から急激に増加した．原因は恩賜，下賜金の急激な増高にあり，臨時出資としての本来の位置づけではなく恒常的に予算化することとなった．	10
		・明治18年，宮内省に御料局を設置，皇室関連財産を移して明確な皇室財産が確定した．これが天皇親政の経済的な基盤と政治圏外から政治をコントロールする絶対君主による行動基盤となった．	10
		・立憲君主は道徳の奨励者であるべきという立場に立てば，皇室財産の保持・運用は，慈恵主義の道徳的勧奨に付随する，必要な財政策となる．	10
		・（戦後）皇族が記入する余地はなくなり，皇室財産の整理も並行して行われたが，内廷費から社会福祉に対する下賜金支出を一切取り止めたわけではなかった．	11
		・形式的な助成費目は消えても，下賜を通じて政治的，社会的な権威の承認行動は戦後も引き継がれ，「象徴」天皇制のもとに天皇，皇族のもつ慈恵的属性も維持，存続した．★	11
義援金	救済のための莫大な資金源の必要性	・莫大な資金が必要であり，有志共立東京病院では1884年明治17年に有栖川宮を総長に迎え，婦人慈善会からの寄付を受けていた．慈恵会医院のように，施療病院は下賜金や慈善バザーの寄付金で運営した施設もあった．	13
	病院のスポンサーとしての婦人慈善会	・明治17（1884）年，有志共立東京病院開院後は，婦人慈善会から援助がなされた．以後，婦人慈善会は有志共立東京病院の事業拡大を支えるスポンサーとなった．	19
	社団法人化における実業家からの援助	・明治38（1905）年，欧州各国の慈善病院を視察した幹事長威仁親王妃慰子の意向で東京慈恵医院の事業拡張計画がもちあがり，渋沢栄一との懇談を重ねて，医院を社団法人化することが決定．皇族だけでなく，渋沢男爵夫人かねに幹事を委嘱することは，実業家からの援助を期待してのことだと思われる．	19
		・明治40（1907）年，社団法人東京慈恵会が成立．有栖川宮威仁親王妃慰子が総裁に，徳川家達が東京慈恵会会長に，渋沢栄一が同会副会長に就任した．東京慈恵医院の事業拡張においては幹事長の有栖川宮威仁親王妃慰子が重要な役割を演じたのである．同年10月24日に東京慈恵医院から改称した東京慈恵会医院の発会式が行われ，社団法人として新たな段階を迎えた．	19
国民のエートス	下資金による庶民の皇室賛美	・慈恵を特徴づけるものは金銭とエートス．地域社会に下賜金を下ろすことで底辺庶民による皇室賛美と皇室制度を底支えする働きを高めた．★	1
		・慈恵に伴うエートスが社会の底辺層によって培われた．	1
		・国民が天皇に自発的に服従する機能が人為的に作られる過程で，慈恵政策が深くコミットした．	1
		・神権天皇制は，従順ならざる人びとの心を畏敬から恐怖へと導いたが，同時にその一方で，慈恵的統治技術は従順な人びとにとって，それははなはだ心地良い存在としての役割を担った．	4
		・施しに感激し，積極的に受容する国民．	4
		・天皇は恵み深いかもしれないというような，全体主義体制に近い『精神的』支配力をもっていた．（ジョン・ダワー）	4
		・天皇慈恵主義は，国民とともにあるという皇室の理念がエートスとしての市民権を得るべく，様々な形をとって国民の生活心情に食い込もうとしている．	4
		・統治とは別の移譲が天皇，皇后の発意（恣意）による慈恵（思想と金品）の移譲であり，政府高官から遂には無告の窮民に行き着く，権力構造の下部へ移る底辺志向の流れがあった．	16
	天皇家への国民の倫理的親近感	・天皇，皇后への国民の倫理的親近感は，人々を天皇制国家の忠良なる臣民へと仕立て上げる素地となった．	10
		・日本の統治機能は，基本的にタテ社会の抑圧と移譲の権力関係があり，一方向的なパターナリズムにより「仁慈」が担保されていた．	16
	儒教的徳治主義	・古代以来の儒教的徳治主義にもとづく政治的慈恵が，明治維新による絶対主義的統一によって，あらためて天皇制的慈恵として再編成された．	10
		・戦前の天皇制下における慈恵を，津田は（中略）儒教思想とその身分倫理から，皇室と国民の関係は「君臣の義」をたてまえとする権力論，権威論の対象になったことに触れた．	11
		・天皇を直接民衆に結び付けるために儒教的徳治主義が体現された．	6
		・台湾は福建省に位置付けられ，中国の政の規範や倫理を説く儒教が救済事業を奨励し，「救済」は国家理想となっていた．（台湾慈恵院制度）	17

への医療を施す仕組みを定着させた．一方で，「国家は救済に関与して国民の教化を図りつつも，自らが責任を持って救済にあたることはせず，天皇制慈恵主義を前面に出して公的救済からは免れていた」[5] と，政府による公的責任の回避が，天皇制慈恵主義を全面に立てた最大の理由であったことも指摘されていた．慈恵政策の推進は，皇室の〈下賜金〉のみならず婦人慈善会や実業家等の富裕層からの〈義援金〉にも支えられた．

〈天皇制〉もまた，「慈恵」概念の成立に深く関わる重要な概念である．幕藩体制が崩れ，明治に天皇新政が復帰する中で，国民に対する皇室の権威象徴化としての天皇制慈恵，すなわち医療・福祉事業が盛んに行われた．慈恵の具体的な担い手となったのは皇后であり，明治・大正・昭和期にわたって皇后は，困窮に苦しみ，疾病に悩む人々に手を差し伸べる内治の象徴となった．とはいえ，天皇による個人的な慈恵運動は限られた場合に過ぎず，大半は「言上」から「裁可」に至るプロセスを経て処理されるという，官僚を中心とする行

政機構が介在していたという．天皇制が政治利用されたことに対する批判は政府側にも皇室側にも寄せられていたが，天皇制慈恵が国民生活に対して実質的に果たした貢献は大きく，天皇制慈恵主義は今日も国民の精神的な拠り所として形を変えて機能していることが指摘されていた．

慈恵政策ないし慈恵主義の定着において重要な役割を担ったのは，〈国民のエートス〉である．天皇から地域社会に下ろされる下賜金は，底辺庶民による皇室賛美と皇室制度を底支えする働きをもっていた．そこで培われた国民の心的態度は，天皇家への国民の倫理的親近感，ないし古代以来日本に存在すると考えられている儒教的徳治主義と相まって，慈恵政策・慈恵主義が国民に広く受け入れられる素地を作った．

3．帰結（Table 4）

「慈恵」の帰結，すなわち「慈恵」に続いて起こる状態や状況に関連して，〈自発的服従〉〈社会事業の発展〉〈仁慈イデオロギーから福祉イデオロギーへの変化〉〈社会的信頼〉〈敬愛の念〉〈日本への愛着〉〈国民の権利意識の弱さ〉という概念が見出された．

戦前の「慈恵」は，国民に独特な精神構造である〈自発的服従〉をもたらしていたことが指摘されている．〈自発的服従〉は，天皇からの施しをつつしんで享受する人々の姿勢である．これは，儒教的徳目を体現する天皇への畏敬の念から生じた恭順の精神を背景としており，「権威」と「恭順」の心理的関係によって成り立っていた．

この〈自発的服従〉は，戦後に入り，天皇が社会福祉への関与を深めたことにより変容していったことが示された．特に，慈恵政策による〈社会事業の発展〉〈社会的信頼〉は，国民の感情に影響を与えた．〈社会事業の発展〉は，慈恵政策ないし慈恵主義の実体化を促す場となった社会福祉や公的な医療事業を通してもたらされたものである．慈恵政策下で創設された東京慈恵医院，済生会，日本赤十字社等の慈恵的医療機関や組織は多くの国民の命を救い，生活の質の向上をもたらした．〈社会的信頼〉とは，市町村，施設，慈善団体が皇室による下賜の対象になった際に得たものであった．下賜を得ることは，金品による直接的な利益だけでなく，現在の認可施設に通ずる社会

Table 4.「慈恵」の帰結

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	文献No.
社会的信頼	一級品というお墨付き	・継続的下賜団体になることは「社会に裨益すること，一級品であるというお墨付きをもらうこと」として社会的信用につながり，一定の効果があった．	16
	名誉と付加価値	・皇室下賜の対象は市町村，施設，団体にとって名誉であり，民間事業経営者にとって大きな付加価値となり社会的信用を得て，寄附金募集，行政補助，地域社会の支援をえる上で有利に展開する素地となった．	16
		・孤児院のような慈善事業は当時「乞食の親分」くらいにしか人々に認識されていなかったが，慈恵救済金を受けたことにより，現在の認可施設に通じる社会的な信用を得た．★	7
敬愛の念	天皇に対する親愛感情	・「万世一系」の天皇に対する国民感情は，「服従」から「畏敬」に，そして「親愛」に変化しなければならなかったが，戦後は，急速に親愛感情が国民の間に広まり，（中略）戦後民主主義と天皇制は矛盾なく両立した．（津田）★	11
		・ 戦後：それまでの神権天皇を廃した「人間宣言」により，その具体的な姿を提示するため，又戦後復興を励ます意味から地方巡幸が開始され，ここでは暖い人間味溢れた天皇像が演出された．	11
	国の慈父としての天皇の眼差し	・慈父として，国民の苦悩を一身に背負う天皇，あたたかいお父さんの眼差し．	4
		・ご仁慈による懐柔と受け止める庶民．	4
	保護と被保護の関係で醸成される畏敬の念	・成員間にみられる強と弱，保護被保護の関係にむすびついてそのピエテートによって支えられて権威（支配）が生まれてくるところに我が国の「家協同体」的特徴がある．（大塚）	12
		・「権威」と「恭順」の関係が，「支配」と「服従」の関係を生むのではなく，「保護」と「被保護」の関係となりファミリアルに醸成されたところに，戦後社会の思想的特徴の一端を見た．	12
		・天皇制慈恵主義がピエテートに支えられることによって，しっかりと国民生活のなかに定着した．	12
	皇族に対する敬愛心理	・人びとの「あこがれ」をベースにした敬愛心理は，天皇個人に対してばかりでなく，皇族全体に及んだ．	4
		・天皇に対する道徳的敬愛は，年月の経過とともに曖昧化，通俗化，スター化し，総じて心理的なあこがれの対象となった．	4
		・戦後：非政治的な君徳を体現する道徳的天皇としてその権威づけを図ろうとした．その結果，国民との関係は権力と恭順の関係ではなく，敬愛と信頼によって成り立つものであると説明された．★	4
		・消滅したかに見えた天皇の「権威」は戦後まもなく，新たな権威を伴う敬愛と信頼の関係を築いた．	4
日本に対する愛着	天皇への連帯的肯定感情に基づく日本への愛着	・天皇に対して肯定的な感情を抱き，「日本に対する愛着」，すなわち形を変えた愛国主義に結びつく条件がここに設定された．	11
		・天皇と国民の間で「共苦」の紐帯が形成され，擬制化された連帯心理はやがて「下から」天皇制を「支える」合理的解釈を生み出す．	11

日本に対する愛着	非政治的な道徳的権威づけ	・明治維新以後：儒教的徳目を体現する為政者によって担われ，「仁政」は「施与」と「撫育」を合わせ持ちながら，統治形態を形づくった．	4
		・戦後：非政治的な君徳を体現する道徳的天皇としてその権威づけを図ろうとした．その結果，国民との関係は権力と恭順の関係ではなく，敬愛と信頼によって成り立つものであると説明された．★	4
社会事業の発展	慈恵政策・主義の実体化としての社会福祉	・「慈恵」の実態化を促す主要な「場」となったのは，社会福祉である．	4
		・「場」となったのは，被災地・社会福祉施設（老人ホーム・障害者福祉施設）であり，天皇は慈愛の人，名士として迎え入れられた．	4
		・孤児院のような慈善事業は当時「乞食の親分」くらいにしか人々に認識されていなかったが，慈恵救済金を受けたことにより，現在の認可施設に通じる社会的な信用を得た．★	7
	慈恵政策・主義の実体化としての公的な医療事業	・日本赤十字社や済生会のような全国組織は，会員制度の充実に努め，高松宮記念基金もその一環として財政の安定化に寄与した．	2
		・済生会は会員制によって運営し，自主的な民間運動として展開した．	12
		・戦前の慈恵医療を引き継いだ具体的実践が無料低額診療事業である．	12
		・戦後から高度経済期には，戦後の天皇による巡幸，昭和20年代の社会的事業施設への天皇皇后の行幸啓，昭和30年代の病院福祉施設への慰問・激励へと多様化した．	12
		・下賜金は罹災に限定せず，社会事業全般に適用できる「基金」として制度化され，大正に入り医療保護施設の設置や疾病保険に代表される社会政策が実現した．	16
自発的服従	天皇の非政治的な権威とカリスマ性	・戦後も非政治的，あるいは過政治的な権威を天皇制は「慈恵」を通じて示し続けた．	
		・戦後の天皇を「非政治的，非権力的」な君主であり，しかもそれは同時に，他の立憲君主国の元首と比べて，「もっとも強力な社会的影響力」の保持者であり，広く国民の支持を得た存在である．（葦津）	11
		・戦後の行幸で天皇と国民が直接対面する機会が度重なることによって，天皇のカリスマ性はかえって増幅される．	11
		・神権天皇制は，従順ならざる人びとの心を畏敬から恐怖へと導いたが，同時にその一方で，慈恵的統治技術は従順な人びとにとって，それははなはだ心地良い存在としての役割を担った．	4
		・皇室の存在は，福祉現場にとって特別なものがあり，そこにはいわれのない感慨があるという．戦後も同様，戦後の天皇は「情緒的シンボル」．	12
		・服従する人々の精神に対する絶対的な高い威力，すなわち権威として現れ，その結果服従者はこれを抗しがたいのとして意識し，すすんでこれに服従する．（川島）★	12
	天皇制イデオロギーの浸透	・明治末期の支配層は，天皇制イデオロギー政策を再編強化し，恩賜財団済生会の任務は，このイデオロギー浸透策の一環を主軸として都市下層民衆の救済事業を担うことであった．	2
	庶民による天皇への自発的服従	・慈恵を特徴づけるものは金銭とエートス．地域社会に下賜金を下ろすことで底辺庶民による皇室賛美と皇室制度を底支えする働きを高めた．★	1
		・慈恵に伴うエートスが社会の底辺層によって培われた．★	1
		・国民が天皇に自発的に服従する機能が人為的に作られる過程で，慈恵政策が深くコミットした．	1
		・服従する人々の精神に対する絶対的な高い威力，すなわち権威として現れ，その結果服従者はこれを抗しがたいものとして意識し，すすんでこれに服従する．（川島）★	12
国民の権利意識の弱さ	身分の上下関係に基づく医療福祉制度の構築	・皇室からみれば政府も国民も「臣下」で統治の対象であり，両者は皇室と向き合う必要があるとして，政府と国民が皇室と向き合う態度を形成した．	16
		・戦前，本来は国が進めるべき医療福祉を天皇による下賜金等が幅を利かせる慈恵主義的性格をもって進められ，医療福祉は「上から下へ」に行う形が制度的にも精神構造としても構築された．	2
		・戦前の慈恵は「賜」がついて廻り，身分の上下関係を基礎に展開した．	11
	権利としてのではなく恩賜としての医療・社会保障という受け止め	・慈恵的医療機関（済生会）が設立されたことで，医療を受ける権利であるという認識を排除し，国家支配の頂点である天皇の恩賜として位置付けた．	2
		・公金による支援・援助は「上から下へ」のもので，「権利としての社会保障」という状況には程遠い．	2
		・日本社会福祉の〈慈恵性〉を，利用者たる市民の側から根底的に克服する視座を獲得しなければならない．	8
仁慈イデオロギーから福祉イデオロギーへの変化	戦前の仁慈イデオロギー	・吉田によると戦前の仁慈イデオロギーは近代化の流れに逆らうものであったが，戦前から戦後にかけて，民衆の支持があり，天皇の仁慈イデオロギーは継承された．	4
		・天皇の仁慈，慈恵はことさら肯定的に受け止める作用を促し，象徴天皇制と慈恵の違いを深く検討することもなく，人びとの心性に定着した．	4
	戦後の福祉イデオロギー	・威武が敗戦とともに一挙に取り払われ人びとは，戦前と戦後を直接につなぐ「慈恵性」に注目することが容易になった．	4
		・「慈父」と「赤子」の間をつなぐイデオロギーとしての慈恵は，戦後の象徴天皇制に継承することはできなかった．福祉イデオロギーの創設され，フィクションとしての慈恵が登場した．	4
		・新たなイデオロギーでは自然な親子感情の復活があり，「慈父」が「息子」に接するよう温かく包摂する心理的な関係の再生が図られた．	4
		・マイ・ホーム主義の慈恵的装飾化．「虚偽性」や「家族の理想型」が見出される．	4
		・戦前は心理的距離を遠くし威光を保ち，戦後は心理的距離を縮め，出会う場を作った．	4
		・「寄付」，「お見舞い」といった日常用語に置き換えて相当の金額が実質〝下賜〟されている．	4

的信頼を得，地域社会のさらなる支援を得る上で有利に展開したという．

戦後になり「慈恵」は，天皇との心理的関係の変化に伴って〈敬愛の念〉へと醸成したことが指摘されている．これは，道徳的徳目を体現する天皇へのあこがれをベースにした敬愛心理を背景としている．すなわち，天皇による非政治的な社会福祉活動と民間活動が密接に絡み合ったことによって，国民にとって天皇は慈愛に満ちた親しみやすい存在となり，戦前の「権威」と「恭順」の関係は，「保護」と「被保護」の関係を基盤とした信頼と敬愛へと醸成した．こうした心理的関係

の変化は，天皇に対する新しい権威づけをもたらすと共に，国民の連帯感と〈日本に対する愛着〉を形成した．

このような輝かしい帰結の陰で，〈国民の権利意識の弱さ〉についても述べられていた．戦前の状況下で，日本の医療福祉は「上から下へ」に行う形が制度的にも精神構造としても構築され，このことが，戦後日本における社会福祉の発展に影響を与えていることが指摘されている．つまり，公金による支援･援助は「権利としての医療」「権利としての社会保障」という認識ではなく，「恩賜としての医療・社会保障」という受け止めにつながり，これは〈国民の権利意識の弱さ〉をもたらしていたことが指摘されていた．

４．関連概念（Table 5）

「慈恵」に関連する概念として「仁慈」と「慈善」の概念が存在した．

「仁慈」とは，貧孤児，老人，病人，自存不能な者に対して国母としての皇后が抱く利他的精神とそれに基づく下賜であり，天皇制をその内側から支える役割を果たしたことが記されていた．それはまた，慈恵救済による国民の強化機能の基盤にもなったが，皇室の「仁慈」は基本的に宮内省と内務省が介在して行われ，たとえ皇后の発意に基づく場合でも政治の深い関与のもとで実施されていたことも指摘されていた．「仁慈」は「慈恵」の概念と重なる面が多いが，殊にその精神主体や行為主体が皇后である場合に「仁慈」の概念が使用されるのに対し，天皇が関与する場合には「慈恵」の概念が用いられることが多かった．

また，一般に明治20年代までの福祉実践を指して「慈善」という語が使われ，特にそれが科学的な志向性を持って組織的に行われるときは慈善事業という語が用いられていた．「慈善」は英語charityの日本語訳であるが，必ずしもキリスト教信仰に基づく隣人愛の実践を指しているわけではない．近代国家の要件としての慈善事業が求められる中で，慈恵的な慈善事業は富裕層の募金や庶民の寄付など，私人としての意思によって行われた．慈善事業は，1917（大正6）年頃を境に，より近代的・合理的・組織的な意味を含む「社会事業」と呼ばれれるようになるが，当時の社会事業は慈恵性の強いものであって，愛情一辺倒で処理できるというような観念のもとに慈恵事業の延長として行われた[6)7)]．「慈善」は，日本における社会

Table 5.「慈恵」の関連概念

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	文献No.
仁慈	天皇制を支える皇后の利他的精神	・赤子の母としての立場に立って，貧孤児，老，疾病，自存不能な者に向かう国母としての皇后の仁慈は，天皇制をその内側から支える役割を果た	10
	政治の深い関与のもとでの実施	・皇室の「仁慈」は基本的に宮内省と内務省を中心とする政治の世界から生じた．個人的な発意にもとづく場合でも，その実施に当たっては政治情勢との関係が深く影を落としている．	10
	慈恵救済による国民の教化機能の基盤	・慈恵救済はその運営上の特徴として精神的な関わりを重視，天皇制慈恵主義の眼目から言えば「仁慈」に基づく国民の教化機能と，その効果向上に注目している．	10
	慈善事業への下賜金を介して提示されたものと皇室への恩恵の情	・皇室が罹災民や高齢者，慈善団体や慈善事業を扶助する名目で下賜金を付与したことに臣民は恩恵の心情を抱いたことが，仁慈の実態であった．	16
		・皇室とのかかわりの深い福田会育児院，東京慈恵会附属病院，日本赤十字社病院，東京市内の済生会入院患者（当初は麹町診療所のみ）に対して，1915年から皇后より反物･裏地･裁縫料が下賜され，皇室の「渥き御仁慈」がより直接的に示された．	8
		･戦前，皇族の「御仁慈」は具体的な形をとって国民の眼前に提示され，そこには生業援護，医療保護，生活援護が含まれ，総じて社会事業的色彩が濃い．	11
慈善	宗教的，恣意的，感情的救済	・慈善事業と社会事業（宗教的対社会的，恣意的対義務的・計画的，感情的対合理的）．	3
	近代国家の要件としての慈善事業	・開国の中で，近代国家には慈善事業が求められた．	3
	福祉実践としての慈善	・一般に明治20年代までの福祉実践を指して慈善という語が使われ，また特にそれが組織的，科学的な志向を示したものとして慈善事業という語が使われている．	3
		・社会福祉の前史としての慈善事業．	3
	隣人愛の実践	・キリスト教辞典によれば「キリスト教的な愛を定義するギリシア語のアガペーの訳語にcaritas（ラテン語一筆者）をあて，後にこの後は愛の具現化である隣人愛の実践としての慈善行為・活動をもあらわすようになった．	3
		・慈善という言葉はcharityの日本語訳である．	3
		・キリスト教辞典によれば「キリスト教的な愛を定義するギリシア語のアガペーの訳語にcaritas（ラテン語一筆者）をあて，後にこの後は愛の具現化である隣人愛の実践としての慈善行為・活動をもあらわすようになった」． －キリスト教信仰に基づく隣人愛がcharityで，その日本語訳が慈善． －日本語で慈善という言葉が使われる時，それは必ずしもキリスト教信仰に基づく隣人愛の実践を指しているわけではない． －キリスト教信仰に基づく隣人愛がcharityで，その日本語訳が慈善． －日本語で慈善という言葉が使われる時，それは必ずしもキリスト教信仰に基づく隣人愛の実践を指しているわけではない．	3

福祉，社会事業の原型として位置付けられていた．

「仁慈」「慈善」の他にも，「仁愛」「慈愛」「慈悲」の概念が文献には著されていたが，分析に足る情報は得られず，これらの概念を特徴づけることはできなかった．

Ⅳ．考　察

本研究の最も明白な発見は，「慈恵」が，比較的限定された文脈で使用された特異的な概念だということである．本研究の分析対象となった19の文献は1982年から2020年の間に著されたが，その多くが明治期から昭和初期の日本の状況を説明・解釈した内容であった．「慈恵」は明治期から昭和初期の天皇制と国家政策という特異的な文脈で広く議論された概念であった．戦後70年を経て，時代の変化とともにこの概念に対する人々の共通認識が失われつつあることが，「慈恵」の概念が不明確で共通理解を得にくい理由であると考えられた．

本研究の結果，「慈恵」の概念は“*人格的つながりに基づき人々が共感・共苦し，救済や施しをする自発的行為*”として定義された．「良民」形成を目的に天皇や政府が国民へ施す救済事業のことを指す〈施し〉は，現代社会に適合しなくなってしまったものの，この「慈恵」の定義が意味することの重要性は，現代の医療現場においても変わらないだろう．むしろ，人格的つながりと共感・共苦を基盤に医療を通して自発的に救済を為す「慈恵」の本質的意味を捉え直し，体現することは，経済原理が優先されがちな現代社会においてこそ求められていると考えられる．

「慈恵」の概念に先行して〈貧困〉や〈災害〉，〈戦争〉という人々に災いをもたらす状況があるが，現代においても2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大は，私たちの暮らしを脅かし，まさに状況的危機状態にある．蔓延するウイルスの恐怖から身を守るための自粛生活，遠隔授業やテレワーク，社会的距離により他者との交流の機会は著しく減少している．

ザイアンスの法則では相手と対面する機会が多いほど相手への親密性を高めると指摘されている[8)]．対面コミュニケーションは相手と同じ空間に存在し，言語的，非言語的手段を用いて2者間以上で行われるものである．2者の対面コミュニケーションにおいて，言葉によって伝えられるメッセージは35%，ジェスチャーや表情，会話の間などの言葉以外の手段によって伝えられるメッセージは65%[9)]と指摘される．つまり，対面でのコミュニケーションを通して親密性が高まることにより，言語的メッセージだけでなく，非言語的メッセージを読み取り，相手への深い理解，情緒的な交流，他者への共感・共苦に繋がると考える．長期化するコロナ禍で，他者との交流の希薄化による相互理解，他者との全人格的な関係が危ぶまれる現代にこそ，慈恵の概念に注目し体現することの重要性を示唆するものである．

明治期以降，日本社会に醸成された「慈恵」とは，明治政府が立憲君主制の確立を目指す過程で皇室の下賜金を主要な財源基盤として推し進めた慈善事業から生まれた概念であった．慈恵政策のもと，日本の医療福祉は「上から下へ」に行う形が構築されたことにより，「権利としての医療」「権利としての社会保障」という認識が国民に醸成されがたかったことが指摘されていた．しかし，その背景には，先に示したように，貧困や災害，戦争などの厳しい状況下で困窮する国民を誰かが助けなければならない当時の社会的混乱状況が前提としてあったことを忘れてはならない．そして，東京慈恵医院をはじめとする慈恵的医療機関・組織が多くの国民の命を救い，生活の質の向上をもたらすことを通して果たした実質的な貢献が，本研究を通して改めて浮き彫りとなったといえる．

「慈恵」「仁慈」「慈善」は，各々の実施主体は異にしながらも，明治政府が推し進めた感化政策や貧民救済政策のもとで醸成された概念であった．それらは全て，いつくしみ情け深いことを意味する「慈」という語を含み，持たざる者に対する持てる者からの恩恵の情を内包している．加えて，単なるスローガンではなく，その恩恵の情を金銭や物資，サービス，慈善行為などの具体的な形をとって国民に示すという共通性が見てとれた．こうした「慈」の実践には，「日々の暮らしの中の無数の呻き，叫び，人間と福祉が壊されてゆくことへの想像力を育み，共感・共苦し，連帯する営みが思想的に内包されて」[10)]いる．この精

神性は，現在の東京慈恵会医科大学の理念ともなっている「病気をみずして病人をみよ」にも通底するものであると言える．

本研究から，その時代の社会背景と政治の文脈により「慈恵」を意味する行為と人々の捉えが変化し醸成しうるものであることが示された．看護学科BSC策定に係る議論において多様な捉え方が出された本学の「慈恵らしさ」を解釈するにあたっては，創立当時の社会における「慈恵」の解釈と理念との関連を理解し，定義する必要がある．東京慈恵会医科大学附属病院の前身である有志共立東京病院が明治20（1887）年に東京慈恵医院へ改名された背景には，「たまたま貧しいだけの人が，治療を受けられずに死んでいくのは，医師として見逃すことができない」[11] という学祖高木兼寛の活動を発展させた成医会の発足がある．さらに，イギリス医学が軽視されている医学界を改革し，医学教育実践を発展させるためには，成医会が施療病院である必要があった医学界の状況と社会背景があった．また，学祖高木兼寛は，セント・トーマス病院への留学経験から正規教育を受けた看護婦の必要性を痛感し，明治18（1885）年，日本で最初の看護教育施設である有志共立東京病院看護婦教育所を開設した[12]．これらの活動は下賜金及び婦人慈善会や実業家等の富裕層からの義援金により継続と発展を成し得た文脈がある．東京慈恵会医科大学130年史において，「過去の事柄を論ずるについては，その当時の社会情勢を視野に入れることで，別の側面も見えてくる．そうでなければ，ただの感情論と化して本質を見失う恐れがある」[11] と述べられている．学祖高木兼寛が医学教育に求めた人間的医師，すなわち，患者の痛みや苦しみがわかる「心」をもった医師の養成という慈恵医院設立の目的とともに，「医師と看護師は車の両論の如し」という医師と看護婦の関係を理想とし「病んでいる人の身体だけではなく，病める人としての心にも配慮せよ」という日本における看護婦（師）教育の礎を築いた教育理念[11] は，人格的つながりと共感・共苦を基盤に医療を通して自発的に救済を為すという本研究における「慈恵」の概念に共通するものと推察された．

本研究の限界は，サンプルとした文献が明治期の社会福祉と社会保障の研究分野に限られていたことと，1つの学術情報データベース（CiNii）を用いて検索したために網羅的に関連文献を収集，分析できなかった可能性があることが挙げられる．また，今回の分析は明治以降に限った文献を対象としたため，本研究で見出された「慈恵」の概念解釈は，明治期から昭和初期の天皇制と国家政策の影響を大きく受けた結果となっている．明治期より以前における「慈恵」に関する文献を対象とすることで，明治期から昭和初期の天皇制に影響を受けていない「慈恵」を含めた概念を明らかにできると推測する．今後は明治期以前の文献や他の研究分野にも調査範囲を広げ，複数のデータベースを活用しながら，「慈恵」概念の全体像をより詳細に明らかにすることが求められる．さらに，Rodgersの概念分析法は，概念が生成された歴史的・文化的・社会的な文脈のもとでその概念の特徴を明らかにする点に特徴がある．従って，今回結論づけられた「慈恵」の概念規定は，明治期から昭和初期の時点での諸特性を暫定的に明らかにしたものであることに注意が必要である．「慈恵」の概念的定義の流動性を捉えるためにも，今後も本研究を継続し発展させることが求められる．

V．結　　論

Rodgersの進化論的概念分析法を用い，「慈恵」の概念の特徴を，歴史的・文化的・社会的な文脈のもとで分析した．「慈恵」の属性は，〈人格的つながり〉〈共感・共苦〉〈救済〉〈施し〉〈自発性〉で構成され，「慈恵」とは“*人格的つながりに基づき人々が共感・共苦し，救済や施しをする自発的行為*”と定義された．「慈恵」は，明治期から昭和初期の天皇制と国家政策という特異的な文脈で広く議論された概念であった．時代の変化とともにこの概念に対する人々の共通認識が失われつつあることが，「慈恵」の概念が不明確で共通理解を得にくい理由であると考えられた．「慈恵」の本質的意味を捉え直し，現代社会において体現することの重要性が示唆された．

本研究は，2020・2021年度東京慈恵会医科大

学医学部看護学科特別研究費助成金を得て実施された．

謝辞：本研究を進めるにあたりご支援を賜りました東京慈恵会医科大学学長松藤千弥教授，同大学学長補佐（前副学長）柳澤裕之教授に感謝申し上げます．

著者の利益相反（conflict of interest：COI）開示：
本論文の研究内容に関連して特に申告なし

文　　献

1) 日本国語大辞典第二版編集委員会, 小学館国語辞典編集部 編. 日本国語大辞典 第2版．第6巻．東京：小学館；2001. p.594.
2) Rodgers BL. Concept analysis: An evolutionary view. In: Rodgers BL, Knafl KA, editors. Concept development in nursing. Philadelphia: WB Saunders; 2000. p.77-102.
3) Rodgers BL. The use and applications of concepts in nursing: The case of health policy [dissertation]. Charlottesville(VA): University of Virginia; 1987.
4) Buzan T, Buzan B. The mind map book: Unlock your creativity, boost your memory, change your life. Harlow: Pearson Education Ltd; 2010.
5) 遠藤興一．天皇制慈恵主義の史的構造について．明治学院大学社会学・社会福祉学研究. 2005; 121:1-82.
6) 石井洗二．「慈善事業」概念に関する考察．社会福祉学. 2014; 55(3): 1-11.
7) 塚本哲．社会福祉．東京：学陽書房；1953.
8) Zajonc RB. Attitudinal effects of mere exposure. J Pers Soc Psychol. 1968; 9(2pt2): 1–27.
9) Birdwhistell RL. Kinesics and context: Essays on body motion communication. Philadelphia: University of Pennsylvania Press; 1970. p.157-8.
10) 永岡正巳．社会福祉政策・実戦の歴史的関係と社会福祉理論の再検討．Human Welfare関西学院大学人間福祉学部研究会誌. 2013; 5: 102-7.
11) 学校法人慈恵大学. 東京慈恵会医科大学130年史 上巻. 東京: 東京慈恵会医科大学; 2010.
12) 栗原敏[internet]. 学校法人慈恵大学理事長挨拶．http://www.jikei.ac.jp/jikei/. [accessed 2022-01-08]